

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる

2016世界食料デー特集



希望の苗を育む 2016世界食料デー

日本国際飢餓対策機構 啓発総主事 田村治郎

先日、トルコ南部シリア国境近くのガジアンテップ県
の中心地で、イスラム過激派組織ISによるとみられる自
爆テロが発生し、51人が死亡、69人がけがをしたとの
ニュースがありました。現場は結婚式の最中、結婚を祝
う音楽と人々の踊りが最高潮に達したその時、人々は喜
びから悲しみへと一瞬にして突き落とされました。そし
て、爆弾を抱え自爆したのはなんと12~14歳の子ども
と知り、テロリストの欲望達成のために子どもたちが道
具とされていることに愕然としました。

ユニセフによる最新の報告では、ナイジェリアのイス
ラム過激派ボコ・ハラムが実行した自爆テロの5分の1
が子どもで、それも大半が少女であるとのこと。また自
らの意思ではなく拉致や誘拐などによって兵士とされる
少年兵・少女兵が世界には25万人以上もいるとされてい
ます。世界のあらゆるところで子どもたちのいのちや人
生が、また抱いているであろう夢が無残にも踏みにじら
れる現実怒りを覚えます。

私たちにはテロや紛争の解決への直接的な介入はでき
ませんが、子どもたちの尊厳や人権を蹂躪する状況に
黙ってはおれません。このようなテロの背景には宗教的

な対立やそれを利用する勢力、また根強い貧困の現実が
あります。JIFHは活動地の諸団体や様々な支援者の皆さ
んと協力し、背景の一つである貧困問題の解決に取り組
み続け、そこに生きる子どもたちの人生を支え続けたい
と願っています。貧困と闘うコミュニティ全体の自立開
発支援を行う中で、子どもたちへの教育支援、栄養・衛
生改善を通して、子どもたちの人生に選択肢が増えるこ
と、また人々と共に生きようとする人財が育成されるこ
とを目指しています。特にアフリカでは、紛争があった
国々を中心に「地域変革プログラム」を行うと共に、子
どもたちへの教育支援を充実させ誰もが食べられ生きら
れる世界の実現を目指します。

いよいよ今年も今月末から全国で世界食料デー大会が
開催されます。そこでは貧困の中を必死に生きておら
れる人々の現状や支援活動の状況が語られます。また多
くのサポーターに支援され希望に溢れる子どもたちの姿
(希望の苗)にも出会ってくださり、この世界にある悲
劇や苦痛が一つ一つ解決されてゆく働きに加わってい
ただければと願います。

わたしから始める、世界が変わる 身近なところから国際協力を！

●書き損じ「はがき」で支援する
各事務所では、未投函のはがきを換金
して海外スタッフ支援のために用いさせ
て頂いています。(注)私製はがきは不可。

【2016年1~6月集計】
はがき2,204枚: **101,317円分**の切手に換金。
未使用切手: **54,345円分**。
国内外の送料軽減に貢献しています。

●『本deリンク』で支援する
JIFH愛知事務所では送られた本や
CD・ゲームソフトを換金して、飢餓・貧困
に苦しむ人々の支援に用いさせて頂いて
います。引っ越し、大掃除の際にもぜひお
送りください。

【2016年1~6月集計】 **95,584円**
(内訳: 本726冊、CD213冊、DVD22冊ほか)
(注)破れや汚れ、書き込みのある書籍、個人出版、文
学全集は換金対象外です。CDやDVDはケース割
れ、ジャケット、歌詞カード不備、海賊版、個人用、
カセットテープやVHSビデオも不可です

●募金箱を家庭や職場に置く
小銭と思われるお金も、飢餓・貧困に苦
しむ人々にとって何倍もの価値を持ちま
す。募金箱は、各事務所にあります。



フェアトレードコーナーがある食料デー大会もあります

●フェアトレードの商品を購入する
開発途上国の生産者から適正な価格で
買い取られた商品を扱う会社 (キングダム
ビジネス) から買って支援する。

世界食料デー企画、ティム・ダンツ夫妻招いてチャリティ

世界の食料事情に思いを寄せる
チャリティディナー in 名古屋
日時: 2016年10月13日(木) 19~21時



名古屋・覚王山にあるアイランドスタイ
ル・カフェレストラン「ハレラニテラス」で
は、国際飢餓対策機構・バングラデシュ代表
のティム・ダンツ夫妻をゲストにチャリティディナーを
開きます。同店自慢のハワイアン料理を頂き、ダンツ
夫妻からバングラデシュの子どもたちの様子を映像を
交えお話を伺います。会費5,000円 (1,000円のチャリ
ティを含む) ※申込は愛知事務所まで。数に限りがあ
りますのでお早めどうぞ。



ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!!

現在までに
4206口

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項
に記入して、点線の
枠部分を切り取りハ
ガキに貼って、下記
の大阪事務所宛に郵
送、又はこの頁をコ
ピーして、ファクシ
ミリで申し込みくだ
さい。確認のための
必要書類等を送らせ
ていただきます。
**お電話でも申し込み
できます。各事務所
までおかけ下さい。**

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 1,000円)
- ☐ チャイルド・サポーター(世界里親会) になり
たいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 1,000円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 500円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名: 男・女

〒

フリガナ
住所:

.....

(電話)

▼申込日: 年 月 日▼NL 314号

FAX・072-920-2155

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

**ハンガーゼロ
で検索!**

Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで

●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構

●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ

**今すぐ
募金が
できます!**

ゆうちょ銀行
そのほか各金融機関

クレジットカード決済

コンビニ決済で現金振込
ファミリーマート FamilyMart
ローソン Lawson
セブンイレブン 7-Eleven

かざして募金

大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東 京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
東 北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ2階E
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651
愛 知 〒460-0012 名古屋市中区千代田 2-19-16 千代田ビル3F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
広 島 〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLC ブックス2F
TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037
沖 縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾンス米 202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするた
めに、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛
関西地区のボランティアの皆様が発送作業の協
力を下さっています。

エチオピア

干ばつから今度は大雨で洪水



川や池などの水源から水を汲み上げるポンプ設備を建設中

水資源確保と衛生、食糧支援を実施

エチオピアでは昨年、30年来の大干ばつによって飲み水が手に入らなくなっただけではなく、作物の栽培も出来なくなっていました。また家畜も死んでしまい1,000万人が飢えに苦しむ状況が続いていました。JIFHは多くの皆様のご支援を得て、飢餓対策ニュース4月号でお知らせしましたようにFHエチオピアの協力のもとオロミヤ州で、3万人余の方々にトラックを使って水を供給する準備を始めていました。また新たに

井戸を掘る地点も確定していました。ところがエルニーニョの影響で5月初めには一転して未曾有の大雨が降ったのです。

1年以上干上がっていた川からは水があふれ、干ばつで枯れ果てた畑が今度は大水に襲われました。長期間の干ばつによって固まった土地は大量の雨水を容易に吸収することができず、洪水によって多くの人々が行方不明になり100人以上が死亡、2万世帯が住居を失いました。干ばつで食料に事欠くだけではなく頼りの家畜も失った人々は、住居まで失うという更なる困難に直面しています。

新たに井戸2基を提供

今やオロミヤ郡政府の要望に応えて飲み水をトラックで運ぶという支援の必要はなくなり、その代わりに求められているのは、降雨によって与えられた水を人々が利用できるようにすることです。このような状況の変化により皆様から頂いたご支援は、新たに掘った井戸2基と既存の井戸から汲み

上げた水を人々に配布するための給水所の建設、また川や池の水を汲み上げるための設備（発電機、ポンプ、機械を設置する小屋など）に用いられています。また井戸ではなく川や池の水を利用する人々のために、水を消毒する薬剤あるいは水のフィルターも提供し、地域の人々には給水所の管理や水の衛生についての3日間のトレーニングを行いました。この支援で3万人の方々が恩恵を受けることができます。

食糧配布は少なくとも9月まで続けられる予定ですが、干ばつに見舞われた地域の人たちが農業を再開するためには、作物の種が必要となります。FHエチオピアでは、今十分に種まきをしなければ食糧難が来年も続くことになるので、国連諸機関と協力してアムハラ郡およびゴンダールで穀物の種の配布を始め、人々が自立できるように支援をしています。

エチオピア緊急援助募金集計
9,957,902円(7月末現在)
ご協力ありがとうございました
※なお募金の受付は終了しています



支援を受けたゴンダールの農民

感謝

2015年度世界食料デーのために全国の皆様から寄せられた募金は、合計15,178,882円でした。これらの募金は、6カ国の子どもたちの教育や給食支援、地域の自立開発、国内避難民の方々のためなどに用いさせて頂きました。そのうち3カ国の活動について報告いたします。

子どもの教育再生プログラム

南スーダン

南スーダンは数十年にわたる内戦の後、2011年7月に独立を果たしましたが、その後も国境地帯で武力衝突が繰り返され経済的社会的混迷は続いています。

JIFHは、首都ジュバから400キロ北西のルンベック地区で2009年より現地パートナーのライフ・イン・アバンドランスと共に、「子どもの教育再生プログラム」を行っています。

教師の数が圧倒的に少ない中、国の将来を担う子どもたちの学ぶ環境が整えられるよう、教師の育成と学校給食の支援を行っています。2010年に学校給食プログラムが開始された当時、給食の提供を受けた子どもたちは110人でしたが、2013年12月の内戦で戦闘の拡大を恐れる人々が学校のあるレイク州に流入し始め、2015年度には530人の子どもたちのための給食支援を行いました。



カラーシャ族 ガールズ・ホステル

パキスタン

パキスタン北部アフガニスタンに近い山岳地帯の辺境、チトラールに住むカラーシャ族は、独自の宗教を持ち、多くの人々が半農半牧で生計を立てています。近年、教育を受ける子どもたちが少しずつ増えていますが、人々のカラーシャ族に対する偏見とパキスタンでの女性の地位の低さのために、女性が教育を受けるには多くの障壁があります。このような状況の中で少女たちが安心して教育を受けられるように、ペシャワールで住居と生活環境を提供しているのがガールズ・ホステルです。

JIFHはこのガールズ・ホステルの活動を2012年8月より支援、2015年度も引き続きこの活動を支援しました。しかしこの数年間のペシャワールを中心とした爆破テロ事件の増加を受け、2016年3月から少女たちの安全のために、拠点をペシャワールから山岳部に近い北部チトラールに移して、支援と教育活動を引き続き行っています。



ミンドロ島村落開発プログラム

フィリピン

ミンドロ島は首都マニラのあるルソン島の南に位置し、住民の多くが農業で生計を立てています。厳しい自然環境のために生活は苦しく、特に山岳部の民族マンヤン人の住むシド村では、アクセスの困難さから多くの人たちが教育や医療のサービスを十分に受けることができません。JIFHの現地パートナー、ハンズ・オブ・ラブ・フィリピンは、この地域で人々の自立と子どもたちの教育支援を行なうため2008年に設立されました。2015年度は住民自身で自らの課題を明らかにすることができました。そこで豊富な自然資源を活用しての収入向上プロジェクトであるビーズ手芸品や石鯿の質を向上させるために、トレーニングを提供。また子どもたちには奨学金支援を継続し衛生教育も行いました。



わたしから始める、世界が変わる 育てよう、希望の苗を

2016 WORLD FOOD DAY

世界食料デー

10月16日は「世界食料デー」です。国連が制定した世界の食料問題を考える日です。1979年の第20回国連食糧農業機関（FAO）総会の決議に基づき、1981年から世界共通の日として制定されました。

世界の一人一人が協力しあい、最も重要な基本的人権である「すべての人に食料を」を現実のものにし、世界に広がる栄養不良、飢餓、極度の貧困を解決していくことを目的としています。当機構もこの趣旨に賛同し、同じ思いをもって協働する全国の方々と共に行動してきました。今年も全国21ヵ所で「世界食料デー大会」が開催されると共に、ご家庭で、職場で、学校で、教会で、様々な取り組みが行われようとしています。

今年のテーマは「わたしから始める、世界が変わる…育てよう、希望の苗を」とし、現在の世界が直面する課題の一つである食糧問題や飢餓と貧困の解決へのさらなる取り組みと、途上国で懸命に生きる子どもたちに焦点を合わせたものです。

7億9,500万人もの飢餓人口を抱えるこの世界で、日本の私たちの食事情は多くの無駄に囲まれています。現在日本では年間5,200万トン以上の農作物や魚介・肉類を世界から輸入に頼っているながら（平成27年度農水省食糧需給表）、食品廃棄量（民間調査）は約2,700万トンにも上り、そのうちまだ食べられるのに捨てられる「食品ロス」は632万トン（食品関連事業者330万トン、一般家庭302万トン）と言われています。日本は食糧の多くを輸入に頼っておりながら、その半分以上を廃棄していることになり

ます。

大量の水輸入国の日本

また、世界で利用されている水の約70%は、食糧を生産するために使われています。例えば、1kgのトウモロコシを生産するには、灌漑用水として約1,800リットルの水が必要となりますが、牛はこうして育った穀物を大量に消費するため、牛肉1kgを生産するには、その約20,000倍もの水が必要となります。これはいわゆる「バーチャルウォーター（仮想水）」で、もし輸入国がそれだけの農作物を生産するとなるとどれだけの水が必要となるかを計算したものです。日本は大量の農作物の輸入国、同時に大量の水の輸入国とも言えます。私たちは他国の土地・



水・栄養などをいただいて生産された多くの農作物を輸入して食べ、そして捨てていることを忘れてはなりません。

このような現状の中で私たちにできることは何か。まずは無駄を省くための工夫、「必要以上の買い物をしない、作りすぎない、すぐに食べる場合には賞味期限の近いものから選んで、店舗からの廃棄を少なくする」など私たち自身の「食」に対する態度を少しずつでも改めてゆくことでしょう。

未来を担う「希望の苗」

もう一つの課題は、途上国で生きる子どもたちの厳しい現実です。今もなお5秒に一人が飢餓で命を落とし、極めて厳しい貧困の中で学校にも行けず児童労働の強要や性的搾取など、いのちの尊厳や人権が根底から覆される状況に置かれています。この状況をなんとか解決しようと長年共に取り組んでくださる各世界食料デー大会の実行委員会の皆さんに感謝します。

今年寄せられる募金を用いて、厳しい環境の改善、貧困のゆえに教育を受けられない子どもたちへの教



世界食料デー大会は地域の実行委員会によって開催されています

育支援、空腹のために集中して勉強できない子どもたちへの給食支援を継続して行ってゆきます。

子どもたちはその国の未来を担う希望であり、彼らの成長は彼らの住むコミュニティに変革を与え、いずれ世界が直面している厳しい現実の解決という実を結ぶ、成長し続ける「苗」としてみなさんとともに育んで行きたいのです。

是非、各地で開催されます世界食料デーにお越し下さり、このような子どもたちが一人でも多く希望を持って未来に歩み出せるように、途上国の子どもたちへのサポーターとなって、分かち合う喜びに加わっていただきたいと願います。

日本国際飢餓対策機構・啓発総主事 田村治郎



仮想水の問題もこれからの課題



支援先の一つルワンダのピース国際学校の子どもたち



大会には様々な形で市民や地域のグループが参加してくださっています

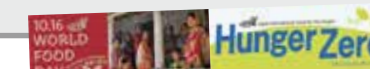


会場で配るWFD小冊子(8頁)

あなたの1食分の募金協力を

募金は、主に以下のプロジェクトに用させていただきます

- バングラデシュ：子ども教育&コミュニティ開発支援
- ボリビア：子ども教育&コミュニティ開発支援
- コンゴ民主共和国：農業&コミュニティ開発支援
- フィリピン：子ども教育&コミュニティ開発支援
- ルワンダ：子ども教育支援
- ケニア：子ども教育&コミュニティ開発支援
- その他



募金協力者にWFDステッカー進呈

2016 世界食料デー大会開催日程

大 会	事務局TEL	開催日	時 間	主な内容	会 場
宮城	仙 台	022-217-4611	10/ 1 ㊦	講演（JIFH 小西小百合） （仙台キリスト教育院常務理事院長鈴木重良）	日本聖公会 仙台基督教会
	多賀城	022-217-4611	10/ 2 ㊦	講演（NPO いのちのパン理事長 菅原陸郎） （JIFH 小西小百合）、音楽（ワンボイスゴスペルクワイヤ）	多賀城市市民活動サポートセン ター 大会議室3F
千葉	柏	03-3518-0781	10/ 1 ㊦	講演（JIFH 近藤高史） 現地報告（JIFH 吉田知基）	アミュゼ柏
東京	WFD フェスティバル	03-3518-0781	10/16 ㊦	47 都道府県（食料廃棄）と国際支援の展示 ブース、ゲストパフォーマン（歌とダンス）	日テレタワー広場
神奈川	湘 南	03-3518-0781	10/22 ㊦	講演（JIFH 田村治郎） 音楽（アルバ演奏）	茅ヶ崎市長谷川楽器店 Cside サロン多目的ホール
愛知	名古屋	052-265-7101	10/15 ㊦	講演・現地報告（JIFH 小西小百合） 音楽（名古屋大フォルクローレ同好会）、子ども絵画コンクール表彰式	名古屋文化短期大学・アッセン ブリーホール
大阪	八尾河南	072-920-2225	10/ 8 ㊦	講演・現地報告（FH バングラデシュ・T ダンツ）	国分福音教会
	東大阪	072-964-5144	10/12 ㊦	講演・現地報告（FH バングラデシュ・T ダンツ） 音楽（未定）	大阪シオン教会
	南大阪	0725-22-3585	10/15 ㊦	現地報告と音楽（JIFH 親善大使森祐理） 音楽（伊藤晴彦泉大津市長、泉大津市少年少女合唱団）	テクスピア大阪 大ホール
	北大阪	06-6387-8178	10/20 ㊦	講演（JIFH 清家弘久） 現地報告（JIFH 小西 小百合） 音楽（クワイア&アンサンブル）	島本キリスト福音教会
奈良	奈 良 ファミリーフェスタ	072-920-2225	10/30 ㊦	講演・現地報告（JIFH 吉田知基） 音楽（MAKI&LILY）	橿原ルーテル教会 （近畿福音ルーテル教会）
兵庫	芦 屋	0797-31-2093	10/ 9 ㊦	講演（JIFH 近藤高史） 現地報告（T ダンツ） 音楽（県立芦屋高校バンド）	芦屋福音教会
広島	広 島	082-546-9036	10/30 ㊦	講演（JIFH 木村カナ） 音楽（JIFH 親善大使 ナイト de ライト）	広島 YMCA 国際文化ホール
山口	関 門	082-546-9036	10/16 ㊦	講演・現地報告（JIFH 田村治郎） 音楽（JIFH 親善大使 Manami、ASANGI）	梅光学院中学校・高等学校講堂
高知	須 崎	03-3518-0781	11/26 ㊦	音楽（シンガーソングライター 堀内佳） 講演・現地報告（JIFH 田村治郎）	須崎商工会館
鹿児島	鹿児島	03-3518-0781	10/13 ㊦	講演（鹿児島大学農学部生物生産学科教授 坂上潤一）、音楽（楠声合唱団、鹿児島少年 少女合唱団）	サンエールかごしま
沖縄	北 部	098-943-9215	9/30 ㊦	講演（JIFH 田村治郎） 音楽（JIFH 親善大使 Manami）	名護市労働福祉センター
	30 周年記念		10/ 2 ㊦	活動報告（JIFH 田村治郎） 音楽（JIFH 親善大使 Manami）	浦添市てだこホール 小ホール
	八重山		10/ 4 ㊦	講演（JIFH 田村治郎） 音楽（JIFH 親善大使 Manami）	石垣市健康福祉センター視聴覚室
	久米島		10/ 5 ㊦	講演 JIFH 田村治郎） 音楽（JIFH 親善大使 Manami）	具志川農村環境改善センター
	宮 古		10/ 7 ㊦	講演（JIFH 田村治郎） 音楽（JIFH 親善大使 Manami）	宮古島市中央公民館

※日程・会場など変更する可能性があります。事前に各大会事務局あるいは東京事務局までお問い合わせください。※ JIFH= 日本国際飢餓対策機構

2016世界食料デー
JIFH講演・現地報告者

2016食料デーA2ポスター
請求は東京事務局まで
電話 03 (3518) 0781

田村治郎

- ◆田村治郎 啓発総主事
- ◆清家弘久 常務理事
- ◆近藤高史 特命大使
- ◆吉田知基 広報担当
- ◆木村カナ 国内啓発

近藤高史

- ◆ティム&アンドレア・ダンツ FHバングラデシュ
ティムはFHバングラデシュ代表、アンドレアは地
域プログラムマネージャーとして地域で最も弱
い人々の模範となるリーダー育成のために従事。
- ◆小西小百合 ボリビア多民族国駐在
2006 年11月にボリビアへ派遣。現在リオカイネ、
アサワにて世界里親会アドバイザーとして、子ども
の教育支援及び地域の自立開発支援、また「ひとづ
くり」の働きに従事。

ティム・ダンツ夫妻

小西小百合

《JIFH親善大使》

- ♪森祐理（福音歌手）〈南大阪大会〉
- ♪Manami（歌手）〈沖縄・関門大会〉
- ♪ナイトdeライト（ロックバンド）〈広島大会〉

森祐理

Manami

ナイトdeライト

清家弘久 吉田知基

WFD2016「あなたの1食分の募金」にご協力ください。子どもたちの給食や教育支援等に用いさせていただきます



国際協力カレンダー 地球家族 2017

2017年のテーマ「MANAZASHI」

まなざしの中の夢や希望

当機構が支援している国々の子どもたちや人々の写真（当機構スタッフなどが撮影）を用いたオリジナル版、2017年の国際協力カレンダーが出来上がりました。

毎年多くの皆様がご愛用くださり、開発途上国の現状の一部を知る一助にいただいていることを感謝いたします。

2017年は「まなざし」というテーマで制作しました。

皆さまのご支援によって、現地の子どもたちは日々の生活が支えられ、夢や希望を持つことが出来ます。写真の中の人々のまなざしから、支援を受けた感謝や喜びなどを感じていただければ幸いです。さらに一人でも多くの子どもたちやその家族、地域の人々が困難な状況から立ち上がることができるよう願っています。

6月 エチオピア緊急援助活動

世界の各地でさまざまな異常気象を引き起こす「エルニーニョ現象」、2015年から2016年にかけてエチオピアでは深刻な干ばつで水源が干上がり、農作物が枯れ、生活を支える家畜を亡くすなど人々の生活に深刻な影響を与えました。

日本国際飢餓対策機構、FHエチオピアでは食料や飲料などの緊急支援を行いました。今後も現地の必要に応える支援を継続します。

協力企業の株式会社キングダムビジネスによるカレンダー販売収益の一部はこのような緊急支援活動などに使われます。

お申込はこちらから

販売価格 税込1,080円（送料別）

株式会社キングダムビジネス
〒540-0026
大阪市中央区南本町1-4-12NPOビル402
TEL：06-6755-4877
FAX：06-6755-4888

- ◆①お名前、②ご住所、③電話番号、④部数、お届け先が異なる場合は、先様の①～④をお知らせください。
- ◆お支払い方法：後払い
郵便払込で株式会社キングダムビジネスの口座へ
申込者様と同じ名前を記入してください。異なりますとご入金の確認が出来ません。
- ◆1部 価 格：税込1,080円
（10部以上は割引特典があります）
- ◆送料 1部400円
（宅配便利用は600円/沖縄・北海道・離島は1,000円）
2部以上800円
- ◆サイズ：高さ510mm×巾364mm
- ◆お届け：10月から順次発送

※当機構の各事務所では販売していませんのでご注意ください。